

[025] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10244>

出版情報：語文研究. 25, 1968-03-10. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



◇学会彙報

▼講義題目 昭和42年度第二学期

(大学院) 国語学特研(中世古文書の国語学的研究)

福田 教授

(大学院・学部) 国語学演習(万葉集卷十九)

全

() 全 講義(国語学概説)

春日助教

() 全 演習(法華百座聞書抄)

全

() 全 特講(近代の文法論)

中村 教授

(大学院) 国文学特研(比較文学の新分野)

全

() 全 演習(風俗文選)

全

(大学院・学部) 全 講義(近世小説史)

全

() 全 演習(芭蕉七部集)

今井助教

(大学院) 全 特研(伝記研究の諸問題)

全

(大学院・学部) 全 講義(仲文集)

重松 教授

() 全 特講(源氏物語研究「構想論」)

平山 講師

(大学院・学部) 国語学臨講

多武峰少将物語の研究

富田 宏之

学部

▼昭和41年度卒業論文題目

式亭三馬と上方方言

西行試論

西鶴の武家物・雑話物における諸問題

人情論―人情本における―

小林一茶 その修行時代―西国旅行を中心にして―

春雨物語論

大学院

平安朝漢文学における詩序の研究

古文書に反映した中世の方言の研究

今昔物語集の謙讓表現について

安永界黄表紙の研究

万葉集の出典語について

研究発表

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会

昭和42年5月21日

研究発表

蜻蛉日記論―上巻の成立について―

初期俳文の状況

日蓮遺文の助動詞について

太宰府天満宮御祈禱連歌

薩隅方言の性格について

―地名より証明せんとする一試案―

芭蕉の「老後の楽み」をめぐって

「独行道」について

隋書倭国伝の国語表記について

五所 美子

寺内美代子

浜田 勝子

松重 誠一

宏

柳原 繭子

後藤 昭雄

迫野 虔徳

中島 京子

中山 右尚

吉川 進

古賀 典子

井上 敏幸

佐田 智明

棚町 智弥

秋田 義昭

佐々木雄爾

紫藤 誠也

森山 隆

山鹿素行自筆「枕草子」について

今井 源衛

総会 決定事項

会則内規第一条第二項の変更。維持会員年八百円、通常会員年四百円を維持会員年千円、通常会員年五百円に改める。

懇親会

於エスキモ

▼十七回西日本国語国文学会

昭和42年9月21・22日

於大分県立図書館

研究発表(本会会員の分のみ)

副詞の一考察——今昔物語集における——

原 栄一

土佐日記注釈本二点の紹介

徳満 澄雄

薩隅方言の源流について

秋田 義昭

「運命」の生成過程について

瀬里 広明

文献と地域との相違——古代語の二現象について——

福田 良輔

公開講演

紫式部伝の諸問題

今井 源衛

▼和歌文学会・万葉学会合同大会

昭和42年10月9・10日

於九州大学工学部

研究発表(本会会員の分のみ)

古代日本語における母韻脱落現象をめぐって

鶴 久

公開講演

万葉語の背景

福田 良輔

▼新入会員歓迎会

昭和42年11月8日

本年度進学生二十名を迎え、後山で歓迎会を挙る。

▼卒業論文構想発表会

昭和42年12月2日

於 文学部会議室

▼会員消息

下田久彦氏(昭和三十二年卒業)は去る四十三年一月二十三日逝去されました。衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

▼受贈圖書 昭和42年9月〜12月

九州文化史研究所々蔵古文書目録七

九州文化史研究所

図書寮叢刊古今和歌六帖、上巻本文篇

宮内庁書陵部

逐次刊行物目録、昭和40年度

国立国会図書館

国語国文学論文目録

熊本女子大学国語国文学会

慈覚大師伝

小野 勝年

ことばの研究

国立国語研究所

訓点語と訓点資料

訓点語学会

駿河岡部の方言と風物

佐藤 義人

古事記の表裏、上

中挟 弘夫

三河歌人掃苔記、続共

熊谷 武至

源氏物語論

岩下 光雄

金槐和歌集各句索引

西村 真一

天皇の系譜と神話

吉井 巖

琉球方言、第8号

吉町 義雄

馬琴年譜稿

天理図書館

曲亭馬琴

天理図書館

後三年記人名索引

笠 栄治

将門記人名索引

笠 栄治

陸奥話記人名索引

笠 栄治

覚をきわめて観念的なものにさせる故、知的関心の対象としてよりふさわしい性格をもちえた、という論は成り立ち難いように思われる。既に述べた通り、六朝の韻律と近体詩のそれとは構造上相容れぬ。にもかかわらず享受の段階におよんで混同を生ずるのは、実作において韻律が第二義的（関与しなかつたため）であったために他ならない。それ故、いわば公式的權威ともいうべき六朝の韻律論が大手を振ってまかり通ったのであって、両者は矛盾関係ではなくて相関関係にあったと考えるべきではないであらうか。

〈付 記〉

稿を草するに当たり、岡村繁先生・松浦友久氏・後藤昭雄氏の御教示を辱うした。岡村先生には、全体に互って懇切丁寧な御注意を賜わり、特に時棟の詩が古体詩であるとの御指摘により一応完成していた初稿を書き改めた。松浦氏には沈約の八病説について種々、口頭により、又数度の書簡によってお教え頂いた。にもかかわらず、氏の説に反対せざるを得なかった。後藤氏より、小石記の記事その他について御示教を得た。終わりに記して謝意を表す。

▼ 受贈雑誌

昭和42年8月～12月（その一）

- 国語と国文学 8～12月、国語国文 6～10月、国文学解釈と鑑賞 8～12月、国文学解釈と教材の研究 8～11月、文学 7～12月、解釈 7～10月、言語と文芸 53～55、文学語学 45・46、国学院雑誌 5～10月、学苑 7～11月、国学院大学紀要 6、国語学（国語学会） 69、万葉（万葉学会） 64・65、言語生活 8、音声学会会報 126、文芸研究（日本文芸研究会） 56、連歌俳諧研究（俳文学会） 33、文芸と批評 2巻 5、国語国文研究（北海道大学） 36・37、人文論究（北海道教育大学） 27、文化（東北大学文学部） 31巻 1、東北大学文学部研究年報 17、国語学研究（東北大学） 7、日本文学論稿（東北大学文芸談話会） 1、一橋論叢 7～11月、日本文学（立教大学） 18、国文（お茶の水女子大学） 27、成城文芸 47、国文学研究（早稲田大学国文学会） 36、演劇学（早稲田大学演劇学会） 8、近代文学研究（法政大学日本近代文学研究会） 3、日本文学（東京女子大学） 29、日本大学人文科学研究所紀要 9、短大論叢（関東学院女子短期大学） 31、上代文学研究会会報（東洋大学） 17、王朝文学（東洋大学王朝文学研究会） 14、桐朋学園研究紀要 10、専修国文（専修大学国語国文学科） 2、和洋国文研究（和洋女子大学） 5、富士論叢（富士短期大学） 12巻 1・2、実践文学 31、人文科学研究年報（神奈川大学） 3、静岡女子短期大学研究紀要 13、静岡女子短期大学国語国文論集 3、国語国文（金沢大学） 3、滋賀大國文 4、岐阜大学研究報告 15、名古屋大学国語国文学 20、愛知大学国文学 9 淑徳国文（愛知淑徳短期大学） 5、（⁵³頁につづく）

る限りにおいて「日記」なのであり、日次が全く不明であれば、「何々の記録」ではあっても「何々の日記」ではあり得ない。「日記」が「日次の記」であるという点でルーズになったのは蜻蛉日記以後のことであって、この点でむしろ本作品は結果的にみて独創的役割を果しているのである。

- 14 次田潤・大西善明「かげろふの日記新釈」明治書院
- 15 秋山虔「蜻蛉日記」アテネ文庫・弘文堂
- 16 木村正中「蜻蛉日記における私家集的性格について」明治大学文学部紀要・第八号
- 17 松田成穂「「かげろふの日記」上巻に関する試論」平安文学研究・第二十五輯
- 18 野村精一「かげろふの終焉」国語と国文学・昭和三十年六月号
- 19 川嶋明子「蜻蛉日記における不幸の変容」国語国文研究・三十三号
- 20 品川和子「蜻蛉日記の表現における波動性(3)」学苑・昭和三十七年十二月号
- 21 阿部秋生「源氏物語研究序説上」
- 22 この部分についての解釈については、様々な説があるが、秋山虔・上村悦子・木村正中「蜻蛉日記注解三十三」解釈と鑑賞・昭和四十年一月号、の説に準ずる。
- 23 秋山虔「道綱母の文学に関する覚え書」国語と国文学・昭和二十五年六月号
- 24 松田成穂「「かげろふの日記」中巻に関する序論的考察」日本文学・昭和三十四年四月号

〈付記〉

本稿は、昭和四十一年度東京大学文学部国語国文学専修課程卒業論文

の一部であり、去る四十二年五月二十一日の九州大学国語国文学会で発表した草稿に加筆したものである。

なお、本稿欄筆の後、伊藤博氏の「蜻蛉日記の執筆時点について」(「言語と文芸」昭和四十二年十一月号)という論文が発表された。本稿二・三章中に、氏の論文の「月日の記述方法」、三「贈答歌と独詠とできごと」中の指摘と重なる点があったが、推論の仕方、結論共に異なるので、敢えてそのままにして公にすることにした。

▼受贈雑誌

昭和42年8月～12月(その二)

女子大国文(京都女子大学)46、立命館文学288～285、語文(大阪大学)27、人文論究(関西学院大学人文学会)17巻3・4、18巻1、甲南大学文学会論集34、試論(甲南文学会)13、愛媛大学紀要12、愛媛大学地域社会総合研究所研究報告9、中世文芸(広島大学中世文芸研究会)38、近世文芸稿(広島近世文芸研究会)12、九州大学文学部紀要(心理学)10、山口大学文学会志18巻1、別府大学国語国文学8、香椎潟(福岡女子大学)13、文献ジャーナル7～12月、東洋学術研究6巻4～8、書陵部紀要18、能楽思潮40・41、古典と近代文学1、日本学術会議月報8巻3、朝鮮学術通報4巻3、肇国8～12月、日米フォーラム7～10月、田唄研究10、白路7～10月、八雲10月、城35、Moulin 21。

▼受贈抜刷

書記の暦について(京都府立大学学術報告18) 園 正造
翻刻・俳書「安楽音」(有明工業高等学校校紀要2) 田中道雄